



# 神奈川県東ロータリークラブ

KANAGAWA EAST ROTARY CLUB

DISTRICT 2590/CHARTERED MAY 29-1976/WEEKLY BULLETIN

2010-2011年度 R I 会長 レイ・クリンギンスミス



地域を育み、大陸をつなぐ

2010-2011年度 第2590地区ガバナー 川野 正久

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| ● 会長 横山 範夫      | ● 会長エレクト 加藤 仁昭  |
| ● 副会長 渡邊 淳之     | ● 副会長 月山 勇史     |
| ● 幹事 飯田 泰之      | ● 副幹事 天野 公史     |
| ● 会計 朝日 達夫      | ● 副会計 田口 健太郎    |
| ● S A A 伊澤 政宏   | ● 副 S A A 小池 将夫 |
| ● 副 S A A 山本 芳弘 | ● クラブ会報 金森 欣一   |

## ●クラブテーマ「コミュニケーション」●



- 事務局** ホテルキャメロットジャパン内 〒220-0004 横浜市西区北幸 1-11-3  
TEL : 045-314-3900 FAX : 045-314-3555
- 例会日** 毎週金曜日 0 : 30 ~ 1 : 30 PM (第5金曜日 6 : 00 PM)
- 例会場** ホテルキャメロットジャパン **創立記念日** 昭和 51 年 5 月 29 日
- URL** <http://www.kanagawahigashi.com/>
- E-mail** [kerc@beach.ocn.ne.jp](mailto:kerc@beach.ocn.ne.jp)

2010-2011年度 **第34号週報 No. 1688** 2011年(平成23年) 3月25日 第1688回例会記録 4月1日発行

**司 会** 天野 公史 副幹事

**誕生日祝** 横溝 亘 会員 (3月10日)  
田中龍太郎 会員 (3月18日)

**点 鐘** 横山 範夫 会長

**斉 唱** 「それでこそロータリー」

**四つのテスト** 江森 国一 職業奉仕委員長  
(第1例会のみ)

**ビジター紹介** 横浜 RC 加藤 和之 様  
横浜戸塚西 RC 川口 健治 様



### 本日〈4月1日〉のプログラム

- ◆ 斉 唱 「君が代」「奉仕の理想」
  - ◆ 献 立 牛フィレ肉のストロガノフ
  - ◆ 卓 話 「カンボジアの子ども達の笑顔のために  
～ビジネスで児童買春問題を解決する～」
- NPO法人かものはしプロジェクト 山元 圭太 様  
(紹介者 川邊 正男 会員)



## 結婚記念日祝

金森 欣一 会員 (3月20日)  
渡邊 淳 会員 (3月25日)  
長井 章 会員 (3月29日)  
竹山 洋 会員 (3月29日)  
岩澤 利雄 会員 (3月30日)

## 新世代奉仕委員会 委員長 脇田いすゞ

先週、河野P Pとフェリス女学院を訪問し、恒例の絵本をお預かり致しましたので、ご報告致します

## スマイルボックス

山本 芳弘 副SAA

横浜RC 加藤和之様

石川さんをお願いごとに参加しました。よろしく願い致します。

横浜戸塚西RC 川口健治様

お世話になります。

田中龍太郎君 誕生日祝い、ありがとうございます。今回の東日本大震災で被害に遭われた方々へ心よりお見舞い申し上げます。災害は明日は我が身、大袈裟なことは出来ませんが身の回りの節電から始めたいと思っています。

横溝 亘君 誕生日祝い、ありがとうございます。

岩澤利雄君 結婚祝い、ありがとうございます。この月に大災害が起こったのはいかなる因果のなせるわざでしょうか？

渡邊 淳君 この度の東北地方太平洋沖地震で亡くなられた方のご冥福をお祈り致しますと共に、被災者の方々には心からのお見舞いを申し上げます。被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。結婚記念日祝い、ありがとうございます。結婚記念日が例会当日で今日はラッキーデーです。今年度は、誕生日も例会日でダブルラッキーデーの確率は多分49分の1、貴重な一日として大切に過します。

長井 章君 結婚記念日のお祝い、ありがとうございます。

竹山 洋君 結婚記念日祝い、ありがとうございます。いつまで続くやら・・・？

金森欣一君 18回目の結婚記念日の夜は計画停電の暗闇の中で迎えました。被災地は停電から外してくれても良いのになあ。

吉田隆男君 ①ペイシェラトンホテルがコンニャクのように揺れて、都市震災の怖さがわかりました。②三半規管が壊れたようで、いつも船酔いの状態です。

月山 勇君 東日本大震災、並びに福島原発事故の被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

河野明光君 被災された方々の様子を見るに付け、心が痛みます。自分に出来る支援を考えたいと思います。

飯田泰之君 この度の東日本大震災で多くの尊い人命が失われました。ここに深く哀悼の意を表し、ご冥福を祈ります。

伊東英紀君 東北大震災、お見舞い申し上げます。

西山 潔君 ①今回の震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げますと共に、お亡くなりになられました方々のご冥福をお祈り申し上げます。②脇田さん、色々とお世話になりました。

高田 修君 3月11(金)地震当日、午後8時頃、インターコンチネンタルホテルに陣中見舞いとしてお茶とビールを3家族に届けました。3月12日(土)飯田幹事、白鳥会員と成田を羽田空港発に変更させ、羽田空港へお連れし、夜には無事台北に着いたと、花会長よりメールを頂戴致しました。全会員のご協力に感謝致します。

脇田いすゞさん 原発、怖いです。

茂木知子さん 東日本大震災の被災者の方々にお悔やみ申し上げます。

## 会長報告

- ・3月度定例理事会報告
- ・地区より2011-12年度R情報・広報・IT委員会の委嘱状が赤堀会員宛てに届いておりますので、ご報告申し上げます。
- ・地区よりニュージーランド災害義援金と東日本大震災災害義援金の協力依頼が来ております。募金箱を回しますのご協力をお願い致します。

## 幹事報告

始めに、東日本大震災により被災に遇われた多くの方々には深く哀悼の意を表し、ご冥福をお祈り致します。

- ・横浜東RCより例会場変更のお知らせが来ております。4月1日より横浜ペイシェラトンに変更になるとのことです。
- ・次回クラブ協議会の開催日は4月22日となります。理事、役員、各委員会委員長の方は万障お繰り合わせの上、出席をお願い致します。

## 委員会報告

### 雑誌委員会 委員長 茂木 知子

東日本大震災の被災者にお悔やみ申し上げます。

この災害が起こる前にエイズに関するリレー投稿を企画致しました。しかし、この災害時に適切であるかどうか判断がつかねます。今回は石川会員のご意見を掲載させて頂いております。

その他、ご意見を頂いている会員もおられます。時期をみて、掲載させて頂きます。ご協力ありがとうございました。

石川会員は、今あまり関心を持たれなくなったエイズの感染拡大を懸念されておられます。是非、ご一読下さい。

伊澤政宏君 東日本大震災に対し、お見舞い申し上げます。  
 小池將夫君 東北関東大震災で被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を祈っています。  
 山本芳弘君 今回の地震に於いて、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

3月25日	21件	67,000円
本年度累計		1,716,100円

### 出席報告

森永 健 委員長

会員総数	55名	(40+15)名
出席会員数	43名	(33+10)名
出席率	86.00%	
ゲスト	0名	ビジター 2名
前回補正後	96.08%	前々回補正後 92.31%

### 卓話

## 「東北関東大震災・その時から一週間」

卓話者 小池 將夫 会員



#### 【その時自分は！】

3月11日午後2時46分・日本を震撼させる地震が・そして大津波が・・・。

その時私はロータリーの例会から帰宅、自室のベッドで休息の為横になったその時に、かすかに体がゆっくり揺すられる振動を感じました。そしてその揺れは次第に大きさを増して、咄嗟に避難路を

確保する為窓を開けました。長い揺れも治まり、消防服を身につけて階下に、怯えている妻に声を掛けて家を出ました。

町内の一人暮らしのお年寄りや障害をお持ちの方の家を訪ねるなど、安否確認を続けました。声を掛けると、皆さんが地震の揺れで私よりも恐ろしい思いをしていたことがわかりました。町会長に町内の安否確認結果を報告、消防署に駆けつけました。

消防署内には既に警備本部が、区役所総務課には区の対策本部が設置されていました。直ちに消防団本部員としての活動を開始、刻々と入る神奈川区内の震災被害の対応を神奈川消防団の9個分団に指示、巡回警戒、津波、危険個所の対応を実施しました。幸いなことに、神奈川区には大きな地震被害はありませんでした。

夜中1時頃、活動も一段落して、会議室床に毛布をひいて仮眠することになりましたが、床の上に毛布でなかなか寝つかれませんでした。そして、近くから聞こえるイビキが・・・

翌早朝も、自分の町の一人暮らしのお年寄りを再度巡回、余震できつと眠れぬ夜を過ごされたと思い、声掛けをして回って消防署に戻りました。

帰宅が出来たのは10時頃でした。それからしばらくは自宅でも消防服を着て休む日が続きました。

#### 【今出来ることは！】

震災5日目、TVでは連日、大津波の恐ろしさと被災地の悲惨な状況が報道され、100年に一度の未曾有の大震災の恐ろしさを目にして来ました。

16日朝の放送を見ていた時、避難所の人の声で「今、このような状況の中で、インフルエンザの流行を心配しています。マスクも足りませんし、予防の消毒薬もありません・・・」。

その時、「なんとか出来ないか」と、強い思いを感じました。暖房、寝具、食料、医療、どれ一つ取っても不自由な、そして寄り添いあって避難生活を送っている被災者の方々、その中で一端感染症が発生したなら・・・火を見るよりも明らかです。

すぐに矢野会員に電話しました。「マスクある？数は？」「4万5千あります」。取引先の医療薬品会社に「手指消毒薬の在庫は？」「300本ですが、100本は納められます」「1時までには連絡もらえれば夕方までに納品出来ます！」。

そして届け先は現地の状況がわからない為、「東北地区のRCを経由して配布出来ないか」と問い合わせるも対応を検討中とのことでした。

RCルートを断念、輸送道が確保されているとの情報を、仲間の運送関係に従事する消防団員から入手、宮城県仙台に的をしぼって、仙台市災害対策本部に電話、マスクと消毒薬の提供を問合せしたところ、「少なくて困っています。助かります」との返事でした。「届ける体制が整ったら再度連絡します」と伝え、次の輸送手段の対応に。

往復900km、給油所で給油せず帰って来る為の車と補助燃料の確保です。車はエコ対応の消防団所有の本部車を借りることにしました。補助燃料は40L。そして運転を代わってくれる同行者が必要でしたが、消防団の同僚の角田会員が同行をしてくれることになりました。残るは輸送ルートの確保です。国土交通省に緊急物資輸送の為の東北自動車道の通行許可を得る方法を問い合わせました。回答は「地元警察に」でした。

## クラブニュース

2011年3月7日(月)の産経新聞朝刊に、2007年に当クラブが淡水へ寄贈した桜に関連する記事の掲載がありました。



2007年3月24日当時

「滬尾桜大道」プロジェクト完成記念碑前にて



## 災害義援金募金

3月25日 253,000円

ご協力ありがとうございました

【表紙の写真について】

『帰路のサービスエリアにて』（小池将夫会員・角田伯雄会員）

次週《4月8日》の卓話予定

テーマ「夢を繋ぐ」

関東学院大学 経済学部 教授 春口 廣 様  
(紹介者 川邊 正男 会員)

この時点で12時45分、まさかと思っていたのですが、今回の輸送に関する問題点がすべて解決しました。“決行です”……。

矢野会員にマスクを依頼、医薬品会社に消毒薬を午後1時までの注文に間に合いました。

それからが大変です。ご飯を炊き、2人2食分の弁当作りを家内に頼み、1時間並んでガソリン確保・・・他・・・他・・・そして積み込み。午後5時に準備が完了しました。仙台市の対策本部にこれから向かう旨を連絡、ヘルメットも携行して自宅を出発しました。途中、神奈川警察署にて「緊急車両」の許可申請を済ませ、交通課の担当警察官に「気を付けて」と見送りを受け、首都高速で一路仙台に向けて走り出しました。東北自動車道は緊急車両のみの通行でガラガラ、3車線道路の路肩側車線に自衛隊・消防・物資輸送車両が50kmの制限走行、到着時間を考え、中心車線を少しだけ制限オーバーで走行させてもらいました。

福島県に入ると雪が降り出し、宮城に近づくにつれ大粒のぼたん雪に、道路は路肩が崩れていたり、補修で路面は凸凹が激しい状況でした。県境付近で積雪量が増し、危険と判断。チェーンを巻く為、国見SAに寄ることにしました。

引き込み道路の上り坂で先行の自衛隊車両が突然停止、整列駐車をする為の様ですが、我々の車は案の定スリップです。後方の運転手の方たちに押しってもらって、無事通過することが出来ました。

一難去ってまた一難、チェーンを装着しようとしてもうまく出来ません。しばらくしてチェーンのサイズ違いがわかりました。「万事休す」です。一日待てば消防団の仲間が物資輸送のトラックでここを通過することがわかりましたが。待つか！走るか！その時、車がFF車であることに気がきました。そして、早く物資を届けたい、その為に来たのだからと「走る」ことに決めました。

国見SAを出た私たちは驚きました。なんと道路上に雪がありません。除雪車が走ったのでした。奇跡が起きたと思いました。気温マイナス6度、残り60kmです。

仙台宮城インターを降り仙台市内に、真夜中1時の町中は通行車両もなく、人が住んでいないのかと思われるくらい静かでした。ガソリンスタンドには既に給油待ちのガラスの凍りついた車の長い列が静かに停まっていた。

仙台市災害対策本部の支援物資集積場は町中を少し外れた丘陵地帯にある県の消防学校でした。午前2時到着、明りの灯った体育館では私たちの到着を待っていたかのように若い人たちが出てきて台車で建物内に物資を運び込みました。責任者の仙台市石川部長さんに「横浜市の神奈川東ロータリークラブです。連絡しましたマスクと消毒液を持参しました」と告げ、「一刻も早く避難所に届きます様にご配慮下さい」と輸送品リストを渡し、重ねてお願いを致しました。「ご苦労様です。わかりました。ご期待に沿う様に努力します。気を付けてお帰り下さい」と気遣いの言葉も頂き、氷点下の雪解けの氷の張ったグランド隅の仮設トイレをお借りして帰路につきました。

横浜には午前10時過ぎに帰着、900km・17時間の旅は無事終了しました。今回の輸送には、私たちの背中を押す大きな力があつた様に思えてなりません。

そして数日後には、TVで仙台の避難施設の入口に見覚えのある消毒液の2種類のボトルが並び、手指を消毒している映像が放映されました。